

事業所名 リハビリテーション颯 みずの

運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和3年9月14日

(新型コロナウイルス拡大防止のため文書にて開催)

参加者	議題
利用者 1名	〈運営状況〉
利用者家族 1名	・ デイサービス/介護度別年間利用者数一覧
地域住民の代表者 2名	・ 当月利用状況(2021年8月末)
市職員 1名	〈リハビリテーション颯みずのの取り組み〉
地域包括支援センター職員 1名	1) 入浴動作における立ち上がり訓練
事業所 2名	2) 口腔機能向上サービスについて
	3) 感染対策について
	4) ご意見・質問照会

会議録

1. 運営状況

2021年8月末時点での登録者数48名、一回当たり平均利用人数5.3人、直近8月の延べ利用者数は16営業日で171名の方にご利用いただきました。

2. リハビリテーション颯 みずのの取り組み

1) 入浴動作における立ち上がり訓練

平行棒内に浴槽環境をつくり浴槽内で使用する椅子の高さを調整し、その椅子から立ち上がる練習を行っています。また、介助が必要な場合の方法も考えていきます。

2) 口腔機能向上サービスについて

言語聴覚士の指導のもと看護師が中心となって口腔リハビリを実施しています。摂食・嚥下機能低下、発声・発音、言語機能低下に伴う機能訓練を行っています。

3. 感染症対策について

〈基本方針〉

「高齢者介護施設における感染対策(一般社団法人日本環境感染学会)」に準じて実施している。

〈事業所内対策〉

- ・ フェイスシールド装着
- ・ 二時間に一度の換気、出入口のドアを常時開放
- ・ 一日二度トイレ清掃
- ・ 利用者退去後、テーブル、椅子、ベッド、訓練器具等の消毒
- ・ 手指消毒液の常時携帯と適宜手指消毒、手洗いの実施
- ・ 利用者における自宅での検温チェック
- ・ 事業所到着時における手指消毒
- ・ マスクを持っていない方への支給
- ・ 不要不急の会議・研修等への出席見合わせ

4. ご意見・質問照会

質問1. 口腔機能向上サービスについて

口腔機能向上のために、様々な訓練を実施しているようで、非常に興味深いです。訓練を行うことによって、どのような変化が見られますか。具体的な改善例などがありましたら、教えてください。

〈回答〉

ご利用者様からは葉物やカップラーメンに入っているネギがのどに引っかかって食べれなかった方が嚥下機能訓練を継続して行うことでカップラーメンのネギ、キャベツの芯の部分が食べれるようになってきたとお聞きしました。また、ブローイング法を行うことで肺活量を使いむせたときにしっかり吐き出す力をつける事を目的として行っています。秒数が徐々に増えている方が増えてきています。

質問2. 取り組み全般について

コロナ禍でのレクリエーションや機能訓練等に変化はありましたか？また、そのような状況の中でもレクリエーションや機能訓練を継続するため、工夫されたこと等があれば教えてください。

〈回答〉

コロナ禍での消毒やマスク着用などの徹底(認知症の方にも丁寧に説明させて頂いています)は行っています。それに対してのメニューの変更は行わず、二種類の有酸素系マシン、上下肢のトレーニングマシン、その方に合わせた個別の運動を行っています。三ヶ月に一度、歩行速度、握力、片脚立位等5種目の身体機能評価を行い、数値的には大きな変化は見られませんが、左右への動揺が軽減し歩行の安定性が増し、一週間に一度転倒されていた方が、最近転ばなくなったというお話も聞きます。コロナ禍において機能訓練等を継続するために、ご利用者様同士が輪になって行う小集団の運動は見送らせていただいています。

ご意見1.

「リハビリテーション颯みずのの取り組み」の〈入浴動作における立ち上がり訓練〉では、本人様がどうなりたいのか把握をし、そのために自宅訪問を行い実際に本人様の入浴動作を確認するとともに住環境や家族の介護力等把握をすることで、その人らしく生きる事への支援を実行されており、大変頼もしく思いました。しかしながら身体状況や介護力も時間の経過とともに変化していきます。常に利用者様や家族様に寄り添い、どうなりたいかその思いを話すのではなく、語っていただくことが大切であると内覧会の時に説明を受け、その精神が大切だと感銘を受けた覚えがあります。これからも利用者様の希望を叶えられるよう共に努力していきましょう。

【次回：令和4年3月頃開催予定】